Yamakado News Letter

山門水源の森を
次の世代に引き継ぐ会

雪解けが進む沢筋

開花が最盛期のキタヤマオウレン　3月11日

まだまだ雪深い山門水源の森。3月11日現在、守護岩の積雪は103cmあります。それでも沢筋や日が当たる南斜面などから、どんどん雪解けが進んでいて、ユキバタツバキやキタヤマオウレン、マルバマンサクなどが雪の中で花を咲かせています。

夏原グラント・ステップアップ助成を受けて

2016年度は組織強化を目的に助成を受けています。その一環で2月24日に会員4名が神奈川県三浦半島の小網代の森へ視察研修に出向き、NPO法人小網代野外活動調整会議代表理事の岸由二さんに話を伺いました。ここは森林、湿地、干潟及び海までが連続して残されている、関東地方で唯一の自然環境と言われる広さ約70haの森です。バブル時代のリゾート開発計画や、それ

谷を縦断するボードウォークが年間6～7万人の来訪から湿地を守る

小網代湾手前で記念撮影

を受けての保全活動の始まり、1997年以降から神奈川県が緑地の買取を開始するなど、山門水源の森とよく似た背景を持っています。岸さんは「流域生態系の地形枠組みと水循環の基本を保持する形で生態系の枠組みが確立されていれば、種のレベルの生態系世界はその後の工夫で回復してゆくことができるはず」と自身の著作『「奇跡の自然」の守りかた』で述べています。

ほんのり甘味を感じるウリハダカエデの樹液で入れた紅茶　2/18

流域全体を視野に入れた活動を継続的に行うためには、組織にもそれなりの体力が必要です。行政の経済的支援も難しくなりつつある昨今なので、CSRに熱心な企業などと協働の仕組みを考えるのも一つの方法、との助言を頂きました。その他、この視察研修で多々得るものがあったので、今後の活動に活かしたいと思います。

むむ、樹液の出が少ないなぁ　2/22

２月後半から３月前半にかけての活動

橋本勘会員が森林資源の発掘と活用の観点から、試験的に山門水源の森に自生するウリハダカエデから樹液を採取し、メープルシロップに加工するまでを行いました。樹液が大量に出るこの時期限定の活動です。

木柵の掘り出し 2/24　Phot by saji

3月に入り雪も少なくなってきたことから、懸案であった老朽化した付属湿地木柵のやり替えをおこないました。しかしながら、その後日に思わぬ大雪に見舞われ、作業は中断しています。

老朽化した木柵の解体撤去　3/4

高さ２mのガーデンフェンスを施工 3/4

楽舎の積雪計は前日より50cm増えて81cm　3/8

湿雪の重みで沢筋の大きなアカマツが付属湿地側へ傾斜 3/9　Phot by saji

ロープで引きながら角度を変えて伐倒、玉切り　3/10

バケツリレーで搬出　3/11